

私とおの100

大学1年の春、私はおの100に出逢いました。大学への進学を機会に、「何か自分を変えたい、変わりたい」という思いがありました。そんなときに、当時の大学の先輩方から聞いたおの100の体験談、熱いメッセージに衝撃を受けたことは、今でも忘れられません。おの100に関わらせていただいたこの4年間を振り返って思うことはたくさんありますが、今思うことは、おの100に出逢うことのできた全ての出来事・経験が今の私につながっているということです。

自分を知るということ。私はこの4年間で、自分のよいところ、悪いところ、得意なこと、不得意なこと、とにかく自分を知り、向き合う機会をいただきました。その中で大切だと感じたのは、『自分のプラス面(長所など)は伸ばす努力を、マイナス面(短所、苦手なことなど)は減らす努力をする』ということです。おの100本番を迎えるまでには、学生は3ヶ月間の研修があります。研修中は1人ひとりがみんなの前で発表をするチャンスをいただくのですが、私は自分の声が小さいことや、伝えたいことをまとめられないことが本当に嫌でした。どうすればよくなるのかもわからずに、自分の中でましになったと思ったら気づけば4年目でした。よくなったのは、人前で話をする機会が増えたことや、自分の発言に自信がもてるようになったからだと思います。自分の中で、苦手なことを克服しようという意識の低さ、これが時間をかけてしまった原因なのですが、できるようになったのは、学生ボランティアの募集活動や企業協賛、その後の研修で、考えをまとめて話をするという経験を積み重ねることができたから。もっと言えば、その過程で失敗したり落ち込んだりしたけれど、周囲からの支えや刺激を受け、諦めずチャレンジし続けることができたからではないかと思っています。おの100以外でも私の心の支えとなりました。

ひとから学ぶということ。KAKIさん、ねえやんはもちろんのこと、私の周りには、常に手本となる先輩・同級生・後輩のみなさんがいてくださいました。特に印象に残っているのは、みなさんが見せてくださる「ひとの背中」です。恥ずかしいことに、4年もおの100に関わっていながら私は自分のことばかりで、「誰かに影響を与えられるように」とか「誰かに見られている」などと意識することが出来ておらず、最後の年になって慌てていました。人の背中ばかりみていたのだなという反省もありますが、私はずっと見ることができて幸せだったと思える、すばらしい人たちに出逢えたのだと思っています。そして少しだけ人の目を意識するようになってからは、「今の自分に満足をしてはいけない」と考えるようになりました。大学卒業を控えた現在、私はまだ誰かのお手本になるような背中を見せることができていないかもしれません。それならば、今後も努力を続けよう。社会へ出るに関わらず、今後の課題の1つとしてしっかり付き合っていくつもりです。

できるようになったこと。以前よりも、前向きな考え方・とらえ方が出来るようになりました。何かをはじめるとき、壁にぶつかった時ほど、「前向きさ」に救われます。これは、変わることができたなと思えることの1つです。

最後に。学生時代におの100に関わることができたこと、そこで出逢うことのできた全てのひとに、本当にありがとうございました。

そしてこれからも、このご縁を大切にしたいと思います。これからも、どうぞよろしくお願いたします。